

医学教育分野別評価
山口大学医学部医学科
年次報告書
令和3年度



医学教育分野別評価 山口大学医学部医学科 年次報告書

令和3年度

医学教育分野別評価の受審 2019（令和元）年度

受審時の医学教育分野別評価基準日本版 Ver. 2.31

本年次報告書における医学教育分野別評価基準日本版 Ver. 2.33

はじめに

本学医学部医学科は、令和元年に日本医学教育評価機構による医学教育分野別評価を受審し、令和2年8月1日より7年間の認定期間が開始した。

令和2年度は、コロナ禍により、対面で授業をすることが難しく、学生に対してキャンパスへの入構を制限する状況となり、同時にカリキュラム委員会や教育プログラム評価委員会等で学生と意見を交わす機会が激減した。一方で、既存の山口大学修学支援システム(eYUSDL)、山口大学医学教育総合電子システム(eYUME)、Moodleに加え、Zoom、Webex等の新規のオンラインツールを導入して、遠隔で授業・レポート提出・評価を行う機会が増え、学生にメールでなくHPで情報を伝達するなど、教職員のオンラインツール活用能力も向上した。また、医学科生の主要のLMSであるeYUMEも、遠隔に対応したブラッシュアップを継続して行ってきたところである。

令和3年度以降は、授業は対面を原則にしつつ、令和2年度のコロナ禍で教職員が身に付けたオンラインツールを授業内外で効果的に活用する等、学修成果基盤型教育・形成的評価・IRを意識したICTを活用する教育を推進する。また、カリキュラム委員会や教育プログラム評価委員会を再開し、学生や外部からの評価を教育プログラムの改善に活用する。

医学教育分野別評価基準日本版 Ver.2.33を踏まえ、令和3年度の年次報告書を提出する。なお、本年次報告書に記載した教育活動は、日本医学教育評価機構の作成要項に則り、令和元年11月5日～令和3年3月31日を対象としている。また、重要な改訂のあった項目を除き、医学教育分野別評価基準日本版 Ver.2.33の転記は省略した。

1. 使命と学修成果

領域1における「改善のための助言」や「改善のための示唆」を受け、医学科アドミッション・ポリシー、医学科ディプロマ・ポリシー、附属病院の臨床研修の目標に加え、大学院医学系研究科医学専攻のディプロマ・ポリシーも含めた、「山口大学医学部医学科・附属病院・大学院医学系研究科の連続した学修成果基盤型(アウトカムベースド)教育の推進」を可視化し、eYUME で広く周知を行った。

卒前・卒後が連携したシームレスな一貫教育を行い、アドミッション・ポリシーで定めた“山口県をはじめとした地域医療に貢献する人材”を育成すると同時に、“国際的視野を持った人材”を育成することが今後の課題といえる。

1.1 使命

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

・ 山口大学の理念、医学部医学科の理念・目的と目標、ミッションの再定義(医学系分野)強みや特色などの役割、およびディプロマ・ポリシーを含む 3 ポリシーを「山口大学医学教育総合電子システム(eYUME)」を用いて広く示している。

改善のための助言

・ 山口大学の理念、医学部医学科の理念・目的と目標、ミッションの再定義(医学系分野)強みや特色などの役割、および 3 ポリシーの相互の関係を整理し、医学部の使命についてより明確に示すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・ 医学科アドミッション・ポリシー、医学科ディプロマ・ポリシー、附属病院の臨床研修の目標に加え、大学院医学系研究科医学専攻のディプロマ・ポリシーも含めた、「山口大学医学部医学科・附属病院・大学院医学系研究科の連続した学修成果基盤型(アウトカムベースド)教育の推進」を可視化し、eYUME で広く周知を行った。

改善状況を示す根拠資料

・ 資料 1-1:山口大学医学部医学科・附属病院・大学院医学系研究科の連続した学修成果基盤型教育(アウトカムベースド)教育の推進

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

・ なし

改善のための示唆

- ・ 使命に国際的健康、医療の観点をより明確に示すことが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・ 医学科アドミッション・ポリシーや医学科ディプロマ・ポリシーで、“国際的視野を持って医療に貢献する人材”の育成を掲げており、国際対応力が身に付く自己開発コースのオリジナルコース等のカリキュラムの活用を、入学希望者や低学年次の学生に、引き続き周知を行う。

改善状況を示す根拠資料

・ なし

1.2 大学の自律性および教育・研究の自由

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

・ なし

改善のための助言

・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・ なし

改善状況を示す根拠資料

・ なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

・ なし

改善のための示唆

・ なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・ なし

改善状況を示す根拠資料

・ なし

1.3 学修成果

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

・なし

改善のための助言

・学生が達成を示せるよう、学修成果/コンピテンシーを具体的に策定すべきである。

学修成果については、教育ユニットの個々の目標の集合のみでなく、6年間を通してその達成度が段階的に測定できるように設定すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・全国医学部長病院長会議が示す「医学教育モデル・コア・コンピテンシー（2017年5月26日）」において、“マイルストーンは別途作成中”とある。医学科ディプロマ・ポリシーは、このモデル・コア・コンピテンシーを参考に作成しており、学修成果/コンピテンシーの具体化や段階設定（マイルストーン）の策定においても、上記会議が提示するマイルストーンの詳細が待たれるところである。一方で、本学でも独自にマイルストーンを作成しており、上記会議が提示するマイルストーンと最終的な照合の上、正式に設定する予定である。

改善状況を示す根拠資料

・資料 1-2: 山口大学ディプロマ・ポリシーと医学専門群におけるマイルストーン

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

・なし

改善のための示唆

・卒業時、医学研究および国際保健に関する学修成果について、教育ユニットの個々の目標の集合のみでなく、6年間を通してその達成度が段階的に測定できるように設定することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・上述のとおり、本学でも6年間を通して達成度が段階的に測定できるマイルストーンの作成を開始したところであり、今後全国医学部長病院長会議が提示するであろうマイルストーンと最終的な照合の上、医学研究および国際保健に関する学修成果についても正式に設定する予定である。

改善状況を示す根拠資料

・資料 1-2:山口大学ディプロマ・ポリシーと医学専門群におけるマイルストーン《再掲》

1.4 使命と成果策定への参画

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

・なし

改善のための助言

・使命と目標とする学修成果の策定には、学生を含めた教育に関わる主要な構成者が参画すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・3 つのポリシーやマイルストーンの改訂にあたっては、医学部学生自治会会長、副会長、各学年総代等の学生代表者を委員とするカリキュラム委員会で協議を行う。また、eYUME を使用して、学生・教職員にパブリックコメントの場を設けた上で、教授会の議を経ることとする。

改善状況を示す根拠資料

・なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

・なし

改善のための示唆

・使命と目標とする学修成果の策定には、他の医療職、患者、公共の代表者など、より広い範囲の教育の関係者からの意見を聴取することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・3 つのポリシーやマイルストーンの改訂にあたっては、“医学科長が認めた広い範囲の教育の関係者及び外部の専門家”を委員とするカリキュラム委員会で協議を行う。委員の委嘱にあたっては、他の医療職、患者、公共の代表者など、より広い範囲の教育の関係者から選ぶこととする。

改善状況を示す根拠資料

・なし

2. 教育プログラム

領域2における「改善のための助言」や「改善のための示唆」を受け、重要な診療科の臨床実習期間の確保、早期臨床体験実習(アーリーエクスポージャー)の増加、垂直的統合教育の推進の検討を、医学教育センターで行った。

今後は、医学科教務委員会で十分に検討を行い、関係部署のコンセンサスを得ながら計画的に実施に移すことが今後の課題といえる。

2.1 プログラムの構成

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

・なし

改善のための助言

・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・なし

改善状況を示す根拠資料

・なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

・なし

改善のための示唆

・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・なし

改善状況を示す根拠資料

・なし

2.2 科学的方法

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

・「Open Science Club」、「自己開発コース」、「修学論文テュートリアル」、「高度学術医育成コース (SCEA/AMRA)」などにより、低学年から継続して研究マインドを涵養し、研究を行う機会が提供されていることは高く評価できる。

改善のための助言

・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・なし

改善状況を示す根拠資料

・なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

・なし

改善のための示唆

・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・なし

改善状況を示す根拠資料

・なし

2.3 基礎医学

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

・なし

改善のための助言

・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・なし

改善状況を示す根拠資料

・なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

・人工知能(医用 AI)について繰り返し教育されていることは評価できる。

改善のための示唆

・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・なし

改善状況を示す根拠資料

・なし

2.4 行動科学と社会医学、医療倫理学と医療法学

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

・1年次から6年次までを通じて行動科学の教育が体系的に行われている。

改善のための助言

・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・なし

改善状況を示す根拠資料

・なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

・人工知能(医用 AI)についての教育が、カリキュラムに取り入れられていることは評価できる。
病気とケア、生と死についての社会・文化的側面、医療環境の変化について、医療人類学のユニットで教育が行われている。

改善のための示唆

・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・なし

改善状況を示す根拠資料

・なし

2.5 臨床医学と技能

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

・2週間ごとに全診療科を回る「臨床実習 1」と6週間ごとの4診療科での「臨床実習 2」の両プログラムにおいて、屋根瓦形式によって診療参加型臨床実習が行われていることは評価できる。
指導医の監督のもとに安全を確保して、積極的に医行為の教育が行われていることも評価できる。
臨床実習ログブックを用いた形成的評価がなされている。
「山口大学医学教育総合電子システム(eYUME)」を用いたアンプロフェッショナルな学生への組織的な対応がされている。

改善のための助言

・全学生に対し、重要な診療科の実習期間をさらに確保すべきである。
地域医療および高齢者医療の教育をさらに充実させるべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・本邦の臨床研修制度が、主要な診療科を必修に戻し、経験症候・疾患も卒前臨床実習との整合(重複)が見られるようになった。重要な診療科で4週以上というのは、日本版注釈で提示されているものだが、卒後臨床研修および卒前臨床実習で重複して数多くの研修医および医学生が特定の診療科に集中することは、指導医への負担や診療科における病棟・外来の業務管理・安全管理においても影響が大きく、可能な範囲でこの評価基準に対応できるよう検討を続けている。重要な診療科の実習期間を更に確保すべく、臨床実習2(クリニカル・クラークシップ)における選択必修化など、臨床実習プログラムの改訂に向けた検討を行っている。

- ・低年次からのインターンシップ体験実習の参加募集を引き続き行っているが、令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止とした(令和3年度も中止)。
- ・令和2年度の地域医療実習(6年次)が、新型コロナウイルス感染症の影響で中止となる中、オンラインで現場の医師を講師とした地域医療セミナーを実施することで、地域医療に関する知識と理解を得る場を確保した(令和3年度の地域医療実習は実施)。
- ・令和2年度の高齢者施設体験実習(1年次)にあたり、高齢者医療・介護に関する事前講義を拡充し、制度の仕組みやメディカルスタッフとの多職種連携に関する教育を行った。ただ、実習自体は新型コロナウイルス感染症の影響で中止となっており、今後の実習の再開は感染状況を見ながら慎重に判断せざるを得ない状況にある。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 2-1: 令和2年度地域医療セミナーの概要
- ・資料 2-2: 令和2年度高齢者施設体験実習講義の概要

質的向上のための水準

特記すべき良い点(特色)

- ・人工知能(医用 AI)についての教育がカリキュラムに取り入れられていることは評価できる。

改善のための示唆

- ・低学年から段階的に患者と接触し、病歴聴取、身体診察などを行う機会を設けることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・学生が病歴聴取や身体診察等の医行為を患者に行うことについて、共用試験の合格等の事前の医学生の評価が条件とされ、また患者等の同意を得た上で許容される行為と考えられている以上、低年次からこれを行う機会を設けることは容易ではない。本学では、低年次から病院見学や高齢者施設体験実習を実施しており、この中で、患者・高齢者とのコミュニケーションを持つ場を確保するとともに、医行為の見学等、段階に応じた経験の機会を持てるよう、関係部署と調整を行っている。低年次からのインターンシップ体験実習の参加募集を引き続き行うとともに、体験実習として許容される項目について関係部署と調整を行っている。
- ・令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、体験実習を全て中止とせざるを得ない状況であった。また令和3年度も病院見学などで医学生と患者との接触は差し控えざるをえなかった。
- ・今後の社会情勢の変化により許容される範囲で、低年次から患者と接触する機会を設けることとを引き続き検討する。

改善状況を示す根拠資料

- ・なし

2.6 プログラムの構造、構成と教育期間

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための助言

- ・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・なし

改善状況を示す根拠資料

- ・なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための示唆

- ・垂直的統合教育をさらに推進することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・垂直的統合教育をさらに推進するため、医学教育センター等で、各ユニットにおける基礎系教員と臨床系教員の構成・配置を継続的に検討しており、基礎・臨床が連携した講義やユニット構成を増やしている。
- ・臨床と病理の垂直統合を推進するため、CPC (Clinico-Pathological Conference:臨床-病理検討会)に臨床実習で病理診断科をローテーション中の学生が参加できるよう臨床実習プログラムを設計しているほか、学生に広く参加を奨励している。
- ・垂直的統合教育の推進として、2年次カリキュラムの肉眼解剖学実習の中に早期外科体験実習を配置し、基礎医学授業と臨床医学授業を並行して学修できるカリキュラムを検討した(令和3年度予定)。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 2-3: 基盤系/展開系ユニットにおける臨床系/基礎系教員の参画状況の例
- ・資料 2-4: 病理診断科の臨床実習プログラム
- ・資料 2-5: eYUME に掲載した早期外科教育の動画

2.7 プログラム管理

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

・なし

改善のための助言

・教育カリキュラムの立案と実施において責任と権限を持つ委員会に、学生の代表を含むべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・学生の代表を含むカリキュラム委員会を設置しているが、令和2年度はコロナ禍の影響で開催していない。令和3年度は開催する予定としている。

改善状況を示す根拠資料

・なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

・なし

改善のための示唆

・教育カリキュラムの立案と実施に責任と権限を持つ委員会に、広い範囲の教育の関係者を含むことが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・広い範囲の教育の関係者を含むカリキュラム委員会を設置しているが、令和2年度はコロナ禍の影響で開催していない。令和3年度は開催する予定としている。

改善状況を示す根拠資料

・なし

2.8 臨床実践と医療制度の連携

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

・なし

改善のための助言

・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・なし

改善状況を示す根拠資料

・なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

・卒業生の学修成果習得状況について関連病院へのアンケートが行われ、その情報に基づき教育プログラムの改良が行われたことは評価できる。

改善のための示唆

・教育プログラムの改良には、地域や社会の意見を取り入れることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・地域医療実習を受け入れている地域の約90の医療施設の指導者にアンケート調査を行い、ディプロマ・ポリシーに準拠した学修成果修得状況について意見を収集することとした（実施は令和3年度）。その他、学生および教育プログラムに関して改善を求める意見も参考に、継続的な改良を行う。

改善状況を示す根拠資料

・資料 2-6: 地域医療実習を行った医学生のディプロマ・ポリシー（DP／卒業時の学修成果目標）修得状況について（アンケート）

3. 学生の評価

領域3における「改善のための助言」や「改善のための示唆」を受け、学生に対し「総括的評価の評価（ユニット成績評価の妥当性）」と「形成的評価の評価（ポートフォリオによる面談の実施状況）」に焦点をあててアンケートを行うこととした。

学生の代表や外部の専門家が参画している教育プログラム評価委員会からの改善点を通じて、適正な形成的評価と総括的評価を検討・実施することが今後の課題といえる。

3.1 評価方法

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

- ・「山口大学修学支援システム(eYUSDL)」などを用いて学生間の相互評価を行っていることは高く評価できる。

改善のための助言

- ・知識、技能および態度を含む評価を確実に実施すべきである。
評価を外部の専門家によって精密に吟味すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・修学支援システム(eYUSDL)のアンケート機能を活用し、学生に対し教育プログラムに関するアンケートを定期的実施することとしている。今回のアンケートは特に、「総括的評価の評価（ユニット成績評価の妥当性）」と「形成的評価の評価（ポートフォリオによる面談の実施状況）」に焦点をあてて実施することとした。令和3年度に“医学教育に関するアンケート”を実施し、その評価と改善についても令和3年度を目途に行うこととしており、知識、技能、態度の評価の実態をまずは把握する予定である。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 3-1:医学教育に関するアンケート

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための示唆

- ・評価方法の信頼性と妥当性を検証し、明示することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・学生に対して実施した“医学教育に関するアンケート”の結果を医学教育センターIR 部門で評価し、改善が必要と判断されたユニットに対し書面で改善を求めることとしている。これらの結果を、外部の専門家が委員として参画している教育プログラム評価委員会で検討し、改善策を教育企画会議及び医学科会議に対して提案することとしている。

改善状況を示す根拠資料

・なし

3.2 評価と学修との関連

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

・「山口大学能力基盤型カリキュラムシステム(YU CoB Cus)」による医学科ディプロマ・ポリシーに基づく能力の獲得状況の数値化・可視化システムは、学生の学修意欲の促進につながり、高く評価できる。

改善のための助言

・形成的評価と総括的評価を適切な比重で実施すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・形成的評価の一環として、令和2年度より、eYUME 上でポートフォリオを開始し、学業・学業外の様々な項目で学生個々の現状を把握した上で、教員が面談を行う取り組みを開始した。

・形成的評価の一環として、令和2年の臨床・クラークシップ（臨床実習2・1期6週間）より、身に付けるべき能力（診療録の記載）を効率よく学修するため、中間（3週目）と最後（6週目）を目途に、各診療科（第1内科・第1外科）の専門家による評価（ピア・レビュー）を開始した。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 3-2: 学生ポートフォリオ・シート 入力マニュアル【学生用】
- ・資料 3-3: 学生ポートフォリオ・シート 確認マニュアル【教員用】
- ・資料 3-4: 学生診療録ピア・レビュー入力マニュアル【学生用】
- ・資料 3-5: 学生診療録ピア・レビュー入力マニュアル【教員用】

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

・なし

改善のための示唆

・学生に対して、評価結果に基づいた時機を得た、具体的、建設的、そして公正なフィードバックを行うこ

とが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・学生に対して実施した“医学教育に関するアンケート”の結果を医学教育センターIR 部門で評価し、改善が必要と判断されたユニットに対し書面で改善を求めることとしている。これらの結果を、外部の専門家が委員として参画している教育プログラム評価委員会で検討し、改善策を教育企画会議及び医学科会議に対して提案することとしている。
- ・形成的評価の一環として、令和2年度より、eYUME 上でポートフォリオを開始し、学業・学業外の様々な項目で学生個々の現状を把握した上で、教員が面談を行う取り組みを開始した。
- ・令和3年度からはポートフォリオの入力を全学年に拡大し(それまでは2年次～5年次)、低年次から高年次まで一貫した形成的評価とフォローアップが可能となるよう改良を行った。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 3-1:医学教育に関するアンケート《再掲》
- ・資料 3-2:学生ポートフォリオ・シート 入力マニュアル【学生用】《再掲》
- ・資料 3-3:学生ポートフォリオ・シート 確認マニュアル【教員用】《再掲》

4. 学生

領域4における「改善のための助言」や「改善のための示唆」を受け、カリキュラム委員会や教育プログラム評価委員会の充実を段階的に図る予定であったが、令和2年度は、コロナ禍により、対面で授業をすることが難しく、学生に対してキャンパスへの入構を制限する状況となり、学生と意見を交わす機会が激減する結果となった。

カリキュラム委員会や教育プログラム評価委員会の充実が今後の課題といえる。

4.1 入学方針と入学選抜

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

- ・多彩な入学者選抜方法を導入している。
- 推薦入試Ⅱのみならず、学士編入学試験においても地域枠を設けている。

改善のための助言

- ・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・なし

改善状況を示す根拠資料

- ・なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための示唆

- ・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・なし

改善状況を示す根拠資料

- ・なし

4.2 学生の受け入れ

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

・なし

改善のための助言

・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・なし

改善状況を示す根拠資料

・なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

・なし

改善のための示唆

・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・なし

改善状況を示す根拠資料

・なし

4.3 学生のカウンセリングと支援

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

・成績不振学生や希望する学生に対し、「特別指導コース」を設け、「学習コーチ」が個別指導を行っていることは評価できる。

改善のための助言

・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・なし

改善状況を示す根拠資料

・なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

・なし

改善のための示唆

・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・なし

改善状況を示す根拠資料

・なし

4.4 学生の参加

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

・なし

改善のための助言

・使命の策定、教育プログラムの策定、教育プログラムの管理、および学生に関する諸事項を審議する委員会に学生が参画し、適切に議論に加わるべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・令和2年度は、コロナ禍により、対面で授業をすることが難しく、学生に対してキャンパスへの入構を制限する状況となり、同時にカリキュラム委員会や教育プログラム評価委員会等で学生と意見を交わす機会が激減した。令和3年度は、カリキュラム委員会や教育プログラム評価委員会を再開し、学生や外部からの評価を教育プログラムの改善に活用する。

改善状況を示す根拠資料

・なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

・学生自治会と協力して、学生の自主的な活動をサポートしていることは評価できる。

改善のための示唆

・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・なし

改善状況を示す根拠資料

・なし

5. 教員

領域5における「改善のための助言」や「改善のための示唆」を受け、新たな業績評価制度を構築しその結果を給与に反映する準備を行った。また、FD 研修会への参加率を上げるため、年度に1回のFD 参加を義務づけた一方、参加方法については eYUME の動画配信サイトを視聴する e-ラーニング形式でも“可”として、FD 研修会に参加しやすい環境を整えた。

業績評価制度は令和3年度から本格稼働するため、業績評価票の提出率が上昇し、適性や評価を行うことにより、継続して教育・研究力の向上に資することが今後の課題といえる。

5.1 募集と選抜方針

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

・なし

改善のための助言

・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・なし

改善状況を示す根拠資料

・なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

・なし

改善のための示唆

・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・なし

改善状況を示す根拠資料

・なし

5.2 教員の活動と能力開発

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

・「教員業績管理システム」を運用し、教員の入力負担を軽減しつつ、教員の活動を質と量の面から評価していることは評価できる。

改善のための助言

・「大学教育職員活動調査票」の提出率を高め、教育職員の評価をより適切に行うべきである。
新規採用教員を含め、教員の研修、能力開発をさらに活性化すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・本法人では、人事給与マネジメント改革を進めることを目的に、文部科学省がとりまとめた「国立大学法人等人事給与マネジメント改革に関するガイドライン(平成31年2月25日)」に基づき、教育研究力の向上に資する魅力ある人事給与マネジメント改革を進めるべく、新たな業績評価制度を構築し、その結果を給与へ反映する準備を行っている。令和3年度からの本格稼働に向けて、令和2年度は新たに設定した評価項目の検証や手順の確認等をトライアルとして実施した。給与への反映区分は8区分設定しており、業績評価票を提出しない者や3年連続業績評価表を提出しない者については、反映区分が低くなるよう制度化している。令和2年度は準備期間ということで、医学部全体の提出率は6割と例年と同程度に留まっているが、令和3年度から本格稼働するため、提出率は上昇し、適切な評価を行えることから、本法人の教育・研究力の向上に資できると期待している。

・医学科主催の様々な FD 研修会では、医学教育の改善に関するテーマを取り上げており、多くの教員が参加することでより良い医学教育の実現に繋がると考えている。令和2年度から、医学系(医学系研究科・附属病院・医学部)の全ての大学教育職員に、年度に1回の FD 研修会参加を義務づけた一方、参加方法については eYUME の動画配信サイトを視聴する e-ラーニング形式でも“可”として、FD 研修会に参加しやすい環境を整えた。令和2年度は、“共用試験 OSCE 内部評価者説明会”と“電子シラバス更新説明会”の2つの FD 動画を掲載しており、令和3年度も、“新任教員オリエンテーション”等をはじめ、積極的に FD 研修会への参加を呼びかける。また、eYUME は個々人のアクセスログが蓄積されるため、視聴していない教員へのピンポイント参加を呼びかけることとする。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 5-1: 国立大学法人山口大学大学教育職員等業績評価実施要項
- ・資料 5-2: 国立大学法人山口大学大学教育職員等業績評価実施要項の運用について (data not shown)
- ・資料 5-3: eYUME 動画配信サイト

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

・なし

改善のための示唆

・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・なし

改善状況を示す根拠資料

・なし

6. 教育資源

領域6における「改善のための助言」や「改善のための示唆」を受け、希望する学生について、適切な指導・評価体制が確保できるという条件下で、海外での臨床実習を推奨している。平成 30 年度に2名の実績（ニューキャッスル大学、City of Hope）があり、令和元年度も1名の申請者があった。

ただし、コロナ禍である令和 2 年度においては、海外への渡航が困難な状況にあり、感染状況をふまえての海外渡航許可の判断が今後の課題といえる。

6.1 施設・設備

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

- ・学生のための研究施設「SMAC(The Student Medical Academia Center)」を設置し、教員を配置して研究志向の高い学生に研究参加の機会を与え、多くの学生が活用していることは高く評価できる。
- ・自主学习や、少人数グループ学修に使用できる部屋を学生に十分提供していることは評価できる。
- ・学生が医学部図書館を 24 時間利用できることは評価できる。

改善のための助言

- ・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・なし

改善状況を示す根拠資料

- ・なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための示唆

- ・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・なし

改善状況を示す根拠資料

・なし

6.2 臨床実習の資源

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

・「山口大学医学教育総合電子システム(eYUME)」を利用して、学生が経験した疾患分類を把握するシステムを構築していることは評価できる。

「臨床実習 2」で選択できる地域基幹病院と、「地域医療実習」で選択できる学外の病院やクリニックが、十分に確保されていることは評価できる。

改善のための助言

・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・なし

改善状況を示す根拠資料

・なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

・なし

改善のための示唆

・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・なし

改善状況を示す根拠資料

・なし

6.3 情報通信技術

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

・なし

改善のための助言

・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・なし

改善状況を示す根拠資料

・なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

・なし

改善のための示唆

・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・なし

改善状況を示す根拠資料

・なし

6.4 医学研究と学識

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

・学部・大学院教育を一貫した「高度学術医育成コース(SCEA/AMRA)」を設定し、多数の学生が研究活動に参加していることは評価できる。

改善のための助言

・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・なし

改善状況を示す根拠資料

・なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

・なし

改善のための示唆

・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・なし

改善状況を示す根拠資料

・なし

6.5 教育専門家

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

・医学教育センターに5名の教育専門家が配置され、カリキュラム開発、教育技法、および評価方法の開発をはじめ、医学部教育の改革に貢献していることは評価できる。

改善のための助言

・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・なし

改善状況を示す根拠資料

・なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

・なし

改善のための示唆

・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・なし

改善状況を示す根拠資料

・なし

6.6 教育の交流

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

・なし

改善のための助言

・「自己開発コース」のみならず、臨床実習においても海外交流をさらに進めるべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・本学では、希望する学生について、適切な指導・評価体制が確保できるという条件下で、海外での臨床実習を推奨している。平成30年度に2名の実績（ニューキャッスル大学、City of Hope）があり、令和元年度も1名の申請者があった。

・新型コロナウイルス感染拡大の影響で、令和2年度および3年度においては、海外への渡航が困難な状況であった。

改善状況を示す根拠資料

・なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

・なし

改善のための示唆

・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・なし

改善状況を示す根拠資料

・なし

7. プログラム評価

領域7における「改善のための助言」や「改善のための示唆」を受け、引き続き、IR と教育プログラム評価委員会について他大学の現状を調べつつ、適正な在り方を模索しているところである。

教育プログラムを改善するために、既存のデータに加え、学生・教職員からどのような評価が必要であり、またどのような設問が適切なのかを検討した上で、効率よく継続的にアンケートを実施することが今後の課題といえる。

7.1 プログラムのモニタと評価

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

・2000年度より医学教育の評価を開始し、2018年9月に医学科教育プログラム評価委員会を設置し、プログラムのモニタと評価を開始した。

改善のための助言

・教育プログラムの評価を実質化し、カリキュラムとその主な構成要素について教育プログラムを評価すべきである。

学生の進歩について、教育プログラムを評価すべきである。

教育プログラムの評価に基づいて課題を特定し、対応すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・IR と教育プログラム評価委員会については、他大学の現状を調べつつ、適正な在り方を模索しているところである。IRの基になるデータの多くは、修学支援システム(eYUSDL)、eYUMEのDBを活用しており、eYUMEに関しては、学生の同意の上で、講義評価、ユニット評価、臨床実習評価、臨床実習マイルストーン評価、ポートフォリオ、学生診療録ピア・レビュー等のデータを抽出した上で加工・可視化し、医学科会議等にフィードバックしている。

・学生の進歩については、令和2年度より、eYUME 上でのポートフォリオ入力を開始し、また令和3年度からはポートフォリオの対象学年を全学年に拡大し(それまでは2年次～5年次)、学業・学業外のような項目で学生個々の現状が収集できており、教育プログラム評価に活用することとしている。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 7-1: eYUME のデータ使用の承諾について
- ・資料 3-2: 学生ポートフォリオ・シート 入力マニュアル【学生用】《再掲》

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

・なし

改善のための示唆

・教育活動とそれが置かれた状況について、定期的に教育プログラムを包括的に評価することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・教育プログラム評価委員会による教育活動の評価と改善について、継続して実施する。

改善状況を示す根拠資料

・なし

7.2 教員と学生からのフィードバック

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

・教員に対しては 2019 年 7 月に、学生には 2018 年 7 月に教育プログラムについてのアンケート調査を行っている。

改善のための助言

・単発のアンケート調査に終わらず、教員と学生からのフィードバックを系統的に求め、分析し、対応すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・修学支援システム(eYUSDL)のアンケート機能を活用し、学生に対し教育プログラムに関するアンケートを定期的実施することとしている。この度の学生へのアンケートは、「総括的評価の評価(ユニット成績評価の妥当性)」と「形成的評価の評価(ポートフォリオによる面談の実施状況)」に焦点をあてて実施することとした。令和3年度に“医学教育に関するアンケート”を実施し、その評価と改善についても令和3年度を目途に行うこととしている。

改善状況を示す根拠資料

・資料 3-1:医学教育に関するアンケート《再掲》

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

・なし

改善のための示唆

- ・教員と学生からのフィードバックを利用して、確実にプログラム開発を行うことが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・学生に対して実施した“医学教育に関するアンケート”の結果を医学教育センターIR 部門で評価し、改善が必要と判断されたユニットに対し書面で改善を求めることとしている。これらの結果を、外部の専門家が委員として参画している教育プログラム評価委員会で検討し、改善策を教育企画会議及び医学科会議に対して提案することとしている。

改善状況を示す根拠資料

- ・なし

7.3 学生と卒業生の実績

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための助言

- ・カリキュラム、資源の提供に関して、学生と卒業生の実績を分析すべきである。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・臨床実習における学生の臨床手技の到達度や臨床推論の経験について、eYUME を用いて学生の自己評価入力を継続的に行っている。また、今後運用開始の EPOC2 が卒前教育に導入されることを想定し、本学が独自に行っている eYUME を用いた評価入力から移行することが可能か、情報収集と検討を開始した。

・カリキュラム改訂やコロナ禍に伴う授業・実習内容の変更等を踏まえ、共用試験や国家試験での成績、臨床実習における経験状況等、学生と卒業生の実績を分析している。

・令和5年度入試より奨学金貸与の入試枠（特別枠）の定員削減が始まることを想定し、臨床研修指定病院や山口大学入局状況等の卒業生の実績を可視化した上で、適正な入試枠の在り方の検討を開始したところである。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 7-2: 令和2年 臨床実習マイルストーンの評価結果
- ・資料 7-3: 令和2年度 新モデル・コア・カリキュラム(平成 28 年度版)による CBT 結果の解析(data not shown)
- ・資料 7-4: 医学部医学科入試枠の変遷
- ・資料 7-5: 臨床研修病院や入局状況等の卒業生の実績(data not shown)

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

・なし

改善のための示唆

・学生を取り巻く社会的、経済的、文化的環境などの背景と状況に関して、学生と卒業生の実績を分析することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・令和5年度入試より奨学金貸与の入試枠（特別枠）の定員削減が始まることを想定し、臨床研修指定病院や山口大学入局状況等の卒業生の実績を可視化した上で、適正な入試枠の在り方の検討を開始したところである。
- ・学生の出身高校や入試枠等を担任教員が把握できるよう、eYUME上のポートフォリオシステムを改修することを学生委員会で検討している。担当担任教員はこれらの背景情報を参考に、学生の形成的評価やケアを行うことが可能となる。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 7-4: 医学部医学科入試枠の変遷《再掲》
- ・資料 7-5: 臨床研修病院や入局状況等の卒業生の実績 (data not shown) 《再掲》

7.4 教育の関係者の関与

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

・医学科教育プログラム評価委員会に、教員をはじめ、学生、事務職員が正式な委員として参加している。

改善のための助言

・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・なし

改善状況を示す根拠資料

・なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

・2018年11月に、58の山口大学医学部関連病院に山口大学医学部卒業生のディプロマ・ポリシー達成度をアンケート調査している。

改善のための示唆

・広い範囲の教育の関係者に、ディプロマ・ポリシーの修得状況だけでなく、教育カリキュラム全体に対するフィードバックを求めることが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・学外実習を行っている関連病院や地域の医療施設・高齢者施設に対して、毎年度、実習カリキュラムの説明とアンケートを行っている。この中で、山口大学の教育カリキュラム全体に関する意見を聴取するようアンケートを改訂し、広い範囲の教育関係者からのフィードバックを得られるよう努めている。

改善状況を示す根拠資料

・資料 2-6: 地域医療実習を行った医学生のディプロマ・ポリシー(DP/卒業時の学修成果目標)修得状況について(アンケート)《再掲》

8. 統轄および管理運営

領域8における「改善のための助言」や「改善のための示唆」を受け、引き続き、学生に関係のある重要な議事要旨や規則については、eYUME で公開しているところである。

これらの議事要旨等を広く学生に閲覧を促し、教育プログラムの改善に多くの学生が参画することが今後の課題といえる。

8.1 統轄

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

・なし

改善のための助言

・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・なし

改善状況を示す根拠資料

・なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

・学生自治会が学生の代表として、教学関係の委員会組織の構成員になっていることは評価できる。

改善のための示唆

・統轄業務とその決定事項の透明性を確保するために、教育関係の規則や議事録を適宜学生にも公開することが望まれる。

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・eYUME の学生専用サイトに、カリキュラム委員会、教育プログラム評価委員会、学生・教職員教育改善委員会の議事要旨及び関連規則等を掲載し、広く学生に周知している。コロナ禍であった令和2年度は、変化する世情にあわせて、医学科としての正確かつ最新の情報を発信すべく、医学科の HP に“医学部における新型コロナウイルスの対応について”の特設サイトを設けたところである。

改善状況を示す根拠資料

- ・資料 8-1:eYUME 学生専用サイト
- ・資料 8-2:医学科 HP“医学部における新型コロナウイルスの対応について”サイト

8.2 教学のリーダーシップ

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

・なし

改善のための助言

・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・なし

改善状況を示す根拠資料

・なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

・なし

改善のための示唆

・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・なし

改善状況を示す根拠資料

・なし

8.3 教育予算と資源配分

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

・なし

改善のための助言

・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・なし

改善状況を示す根拠資料

・なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

・なし

改善のための示唆

・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・なし

改善状況を示す根拠資料

・なし

8.4 事務と運営

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

・医学教育センターを設置し、教育プログラムと関連の活動を支援している。

改善のための助言

・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・なし

改善状況を示す根拠資料

・なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

- ・医学教育関連の事務職員の職務分担と異動に配慮し、業務が円滑に引き継がれるように配慮している。

改善のための示唆

- ・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・なし

改善状況を示す根拠資料

- ・なし

8.5 保健医療部門との交流

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

- ・山口県や地域の保健医療機関との連携が構築されている。

改善のための助言

- ・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・なし

改善状況を示す根拠資料

- ・なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

- ・なし

改善のための示唆

- ・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

・なし

改善状況を示す根拠資料

・なし

9. 継続的改良

基本的水準

特記すべき良い点（特色）

- ・若手医師確保の問題意識を共有し、現状分析を実施している。

改善のための助言

- ・なし

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・なし

改善状況を示す根拠資料

- ・なし

質的向上のための水準

特記すべき良い点（特色）

- ・評価せず

改善のための示唆

- ・評価せず

関連する教育活動、改善内容や今後の計画

- ・なし

改善状況を示す根拠資料

- ・なし